

I 学校教育目標

「わかる授業！友だちいっぱい！

今日も来てよかったと思える白子小学校」

II めざす学校像

【めざす学校像】

- ・児童が一人ひとりが「わかる」「できる」を実感し、成長できる学校
- ・教職員が協働し、組織的に教育活動を展開する学校
- ・保護者、地域との連携を大切に、信頼される学校

【めざす子ども像】

- ・確かな学力を身につけた児童
- ・豊かな人間関係を築くことができる児童
- ・心身ともに健康で、粘り強く取り組む児童

III 学校経営方針

1 生きる力の育成

(1) 確かな学力の育成

～思考力・判断力・表現力の育成と学習基盤（言語能力・情報活用能力の育成）～

(2) 豊かな心の育成 ～自尊感情の醸成～

(3) 健やかな心身の育成 ～落ち着いた学校生活と体力向上～

2 特別支援教育の推進

3 安全・安心な学び場づくりと地域に「開かれた学校」の推進

4 組織的な学校運営と働き方改革の推進

IV 現状と課題

1 地域の特性

本校は、白子地区と寺家地区の一部で構成されている。校区には、国道23号線、近鉄線、旧伊勢街道が校区を南北に走り、白子港もあり、交通の要衝として古くから栄えた地域である。また、伝統産業会館をはじめ、伊勢型紙資料館、子安観音、代官所跡など史跡や記念館も多く、児童は身近に歴史に触れる機会に恵まれている。住民の大半は給与生活者であるが、一部、漁業従事者もおり、伊勢型紙や鈴鹿墨など伝統産業を生業とする人もいる。また、校区の寺院には俳人山口誓子が起居した施設も残り、全校児童が俳句づくりをするなど俳句に親しんでいる。

多くの地域住民は、本校を「祖父母の代からの学校」と強く意識し、教育活動

に対して協力的である。また、R3年度に「白子地域づくり協議会」が設立。地域内の既成の組織を整理・統合し、白子地区全体の組織的な体制が整った。一方、アパートやマンションの増加に伴い、人とのつながりが希薄化しつつある現状も感じられる。白子地域づくり協議会が立ち上がり、コロナ禍での学校と地域の連携の在り方も模索している現状である。

2 確かな学力の育成

H29年度～ 研修主題：いきいきと学び合う子どもをめざして 教科：算数科

子どもたちの学び合いを大切に、基礎学力の向上、思考力・判断力・表現力の育成、主体的な学習態度の醸成をめざし、授業改善に取り組んできた。平成31年度の鈴教研委託研究発表会を経て、深い学びや思考力の育成に一定の成果は見られた。しかし、学調やみえSC結果分析から、学習意欲や条件に合うように記述する表現力などに課題が見られた。

令和4年度 研修主題：いきいきと学び合う子どもをめざして 教科：国語科

こうした本校の取組を定着、発展させるため、学調結果等から児童の強み弱みを踏まえ、これからの社会で必要となる資質・能力の育成をめざした授業改善や学習基盤となる言語能力や情報活用能力の育成をめざし、研修主題は継続しつつ、窓口となる教科を国語科に変更した。

3 豊かな心の育成と特別支援教育の推進

一人ひとりの個性を認め合える学校・学級づくりをめざして取組を進めてきた。具体的には、人権が尊重される授業実践、仲間づくりや学級づくり、教職員の人権感覚を磨く取組、そして保護者や地域への啓発を計画的に進めてきた。指導に当たっては、一人ひとりの子どもたちの人権尊重を基盤にすえ、全教職員が共通理解を図りながら取り組んできた。

発達に課題がみられる児童や個に応じた支援を要する児童に対しては、特別支援教育コーディネーターを中心に、支援会議を開き、学校・保護者・関係機関が連携して、適切な支援を行うよう取り組んでいる。

しかし、様々な要因により自他を大切に思う心情が十分培われていない児童、発達に課題がある児童や言語能力が障壁となっている外国人児童への対応が課題となっている。また、特別支援学級に在籍する児童はもとより通常学級籍で支援を必要とする児童も年々増加している現状をふまえ、個別の支援計画の整備とともに特別支援教育の視点に立った授業づくりと教育環境整備を全教職員の共通理解のもと、進めていくことも必要である。

4 健やかな心身の育成

いじめや問題行動について、重大な事案には至っていないが、小さな問題は日常的にみられる。自尊感情や自己効力感の低下、コミュニケーション力の弱さに起因したトラブル事案が少なくない。毎学期実施のいじめアンケートなどを活用しつつ、絶えず全教職員が子どもたちの動向を見守り、気になるケースは情報共有をして、迅速、組織的に対応することが重要である。また、不登校（傾向）の児童も数人いる。児童や保護者の思いに寄り

添いながら、関係機関と緊密に連携をとって対応していきたい。

挨拶や時間の遵守、履物揃え、適切な言葉遣い、無言掃除など基本的な生活習慣等は意識されつつあるが、十分定着しているとは言い難い。また、昨年度は骨折事案が複数あり、子どもたちの体力や危険回避能力の低下が懸念される。生活指導部が中心となり、丁寧な児童理解に基づいた組織的で統一感のある指導が重要である。また、体育担当を中心とした計画的な体力向上の取組も工夫する必要がある。

5 安心・安全な学び場づくりと「開かれた学校」の推進

子どもたちにとって学校は安心・安全な場所でなければならない。昨年度は校舎内の整理や屋外の除草・樹木剪定、運動場の砂入れなど、環境整備に努めた。また、学期ごとの安全点検で指摘された箇所は、迅速に修繕をしている。

今後も環境整備に努め、様々な事故や怪我、個人情報流出等の不祥事の未然防止を図ると共に、落ち着いたある校内環境、働きやすい職場環境を作りたい。また、コロナ禍の中、様々な災害被害の低減や想定される危険リスクの回避に向け、万一危機が発生した際の対応について日頃から十分準備しておく必要がある。機会あるごとに、白子小危機管理マニュアルの見直しと周知は必要である。

令和3年度は学校運営協議会を年間5回開催（中学校区の学校運営協議会は中止）し、本校の学校経営方針、課題等について地域の方と意見交換を行った。その中でも地域の防災、学力向上や読書活動の推進について関心の高さが伺えた。校内では、ネットトラブルや家庭学習等の課題も浮き彫りになっている。こういった課題に対して、令和4年度も引き続き、学校運営協議会からも意見を求め、家庭・地域と連携・協働した教育活動を推進していきたい。

6 組織的な学校運営と働き方改革の推進

コロナ禍の下、例年通りの教育活動が難しい中、三委員会を中心に主体的・組織的に教育活動を工夫しながら進めた。特に、一人一台端末が導入され、ICTを活用した授業実践や校務のICT化は変革の大きい年度であった。

一方、若手教員が増える中、学校現場を取り巻く課題の多様化・複雑化がすすみ、一人の教員による課題解決は多大な困難を伴うことが少なくない。組織的な体制を構築して、チームとして対応することの重要性は明らかである。また、子どもとしっかり向き合うために、効果的な教育活動の実現を目的とした働き方改革の主旨を認識し、教員の総勤務時間縮減に向け、人材育成や持続可能な学校教育の在り方がより一層求められる。

V 本年度の行動計画

1 生きる力の育成

(1) 確かな学力の育成 ～思考力・判断力・表現力の育成～

①学習指導要領の趣旨を踏まえた「深い学び」の実現

- ・全教員による授業公開
- ・「めあて」「まとめ」「ふり返り」を位置づけた授業スタイルの確立
- ・発問の工夫と学び合いの深まり
- ・「三重の学 - Viva」の活用と学調・みえ SC の結果分析

- ・客観的な評価をいかした授業づくり
- ②基礎学力の定着
 - ・少人数指導（習熟度別・TT）によるきめ細かな指導
 - ・朝の学習タイム（1・2年：毎日 3年以上：月・木）と自主プリント
 - ・学習ボランティアの活用
- ③家庭学習の習慣化
 - ・「家庭学習の手引き」の活用
- (2) 学習基盤（言語能力・情報活用能力）の育成
 - ④読書活動の推進
 - ・日常的な読書活動（朝読書・すき間時間読書）
 - ・教師やボランティアによる読み聞かせ
 - ・図書巡回支援員による多様な読書機会の活用
 - ・魅力を感じる図書館整備
 - ⑤ICTを活用した授業の推進
 - ・ICT推進委員会の定例化
 - ・ICT全体研修会・ミニ研修会の実施
 - ・日常的な授業での活用とICTサポーターと連携した授業実践
 - ・持ち帰りによる家庭学習での活用
- (3) 豊かな心の育成 ～人権感覚・自尊感情の醸成～
 - ⑥教育活動全体を通じた人権尊重を基盤にすえた授業実践
 - ・「わかった」「できた」という達成感を感じる授業
 - ・承認活動の充実と自尊感情・自己効力感の向上
 - ・身の回りの人権課題の解決に向けた授業実践（道徳の時間等を活用）
 - ⑦人権尊重を基盤に据え、全ての子どもが居場所のある学校づくり
 - ・学校生活を豊かにする自主的活動の充実
 - ・いじめアンケートによる実態把握と早期対応
 - ・日常的な情報共有と個別の教育相談の実施
 - ・特COを中心とした支援体制と組織的対応
 - ・SC, SLSの活用と関係機関との連携
 - ⑧教職員の人権感覚と指導力の向上
 - ・核となる児童を中心に据えたレポート研修会
- (4) 健やかな心身の育成 ～落ち着いた学校生活と体力向上～
 - ⑨落ち着きのある生活態度と健全な心の育成
 - ・重点目標（挨拶・時間・履物・無言清掃）の凡事徹底
 - ・校内環境美化と刺激の少ない学習環境づくり
 - 「環境が変われば心が変わる。心が変われば行動が変わる。
 - 行動が変われば人が変わる。・・・」
 - ⑩児童理解に基づいた統一感のある生徒指導
 - ・「白子小のきまり」の共通理解と指導の徹底
 - ・問題行動発生時での児童の心情を引き出す指導と毅然とした対応
 - ・教職員間の情報共有と迅速かつ組織的な対応
 - ⑪問題行動の未然防止と組織的で迅速な初期対応
 - ・アンテナを高くして子どもの変化をキャッチ
 - ・保護者との信頼関係の構築（こまめな連絡）

⑫体力向上の取組の充実

2 特別支援教育の推進

⑬個に応じた支援の充実

- ・特別支援教育COを中心とした支援体制の確立と組織的な対応
- ・個別の教育支援計画・個別の指導計画の整備と教職員間の情報共有
- ・保護者や各関係機関と連携した効果的な支援会議の開催

⑭特別支援教育の視点にたった教育活動の充実

- ・見通しのある教育活動の実施
- ・困り感に寄り添った具体的な手立て（ユニバーサルデザインの視点）
- ・刺激の少ない落ち着いた学習環境づくり

3 安全で安心な学び場づくりと地域に「開かれた学校」の推進

⑮学校安全計画に基づく安全教育の推進（生活指導部と連携）

- ・地域・家庭と連携した防災・防犯の取組（避難訓練・引き渡し訓練等）
- ・教職員研修の実施と非常時の組織的な体制の確立
(危機管理マニュアルの見直し・周知)

- ・生活の中に潜む危険個所の点検・修理

⑯新型コロナウイルス感染症対策の徹底（養護教諭と連携）

- ・マスク・手洗い・体調管理の徹底
- ・「学校の新しい生活様式」についての共通理解

⑰地域に開かれた学校づくり

- ・地域人材や地域教材の活用
- ・学校運営協議会の熟議内容を学校運営に反映
- ・学校の教育活動の情報発信（学年だより・学校だより、HP）

4 組織的な学校運営と働き方改革の推進

⑱学校経営計画に基づいた取組の具現化

- ・「自己目標設定・人事評価シート」の活用と面談の充実

⑲全教職員による学校運営への参画と組織の活性化

- ・三委員会や各専門委員会の活性化
- ・効率的な業務改善（校務のICT化）

⑳風通しのよい職場づくりと服務規律の遵守

- ・コンプライアンス遵守に対する意識向上

㉑時間外労働の削減

- ・年360時間を超える時間外労働者数 0人
- ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人
- ・1人当たりの月平均時間外労働 30時間以下
- ・1人当たりの年間休暇取得日数 22日以上
- ・設定した日の定時に退校できた職員の割合 90%以上
- ・放課後に開催して60以内に終了した会議の割合 70パーセント